

2 授業日誌法による授業リフレクション

(1) 小学校教師による実践

① 研究の方法と手順

ア 授業日誌(市内小学校5校の3～6年担任の教師5名で作成した2週間のサンプル)

共通の用紙を用意し、記入例1のように、毎日の授業で気になった児童の状況を(良い面も)記入する。その際、対応した手立ての他に、その手立てを用いた理由や授業・単元計画へのフィードバックもできるだけ詳しく記入する。特に気になった状況がない場合は記入しない。

◇[記入例1]

日時	科目名	対象児童	気になった状況	対応した手立て	手立てを用いた理由	授業・単元計画等へのフィードバック
11/20 2校時	国語	太郎	新出漢字を視写する際、ぼーっとしている。	机間指導をし、どこに何を書くか指示。	細かい作業を面倒がることが多く、丁寧に取組ませたいため。	視写の段階で書き誤る児童もいるので、机間指導をする。
11/20 4校時	図工	花子	「リコーダーを吹く友達」の指が描けない。	描き方がわからない→別の紙に描いて見せる。	細部をよく見ることが苦手で、自分のイメージで描いてしまうため。	同様の児童が多いので、大きめの紙を用意し、大きく描かせて縮小コピーをする。日常からクロッキーに取り組む。

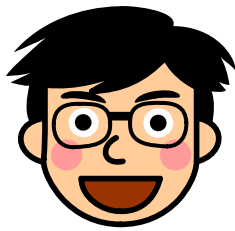
*同じ児童でも、違う状況が見られたときは欄を別にして記入する。

イ 個票の作成

[記入例1]をもとに、Excel等の機能を活用して、対象児童1名につき1枚、[記入例2]のような個票を作成する。

◇[記入例2]

日時	11/20 2校時	科目名	国語	対象児童	太郎	記入者	S
1 気になった状況				2 対応した手立て			
新出漢字を視写する際、ぼーっとしている。				机間指導をし、どこに何を書くか指示。			
3 手立てを用いた理由				4 授業・単元計画等へのフィードバック			
細かい作業を面倒がることが多く、丁寧に取組ませたいため。				視写の段階で、書き誤る児童もいるので、机間指導をする。			



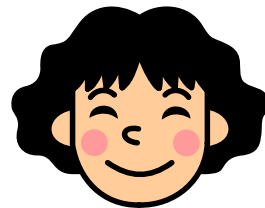
1 気になった状況
全6項目に分類

学習に取り組む
態度

学習に正対する
態度・達成

学習の深まり

⋮



2 対応した手だて
全12項目に分類

称賛

教師からの注意

助言

⋮

同じものを
コピー

同じものを
コピー

日時	2校時	科目名	国語	対象児童	記入者	S
1 気になった状況		2 対応した手だて				
.....						
3 手だてを用いた理由			4 授業・単元計画等への フィードバック			
.....						

それぞれの教師
が、1～4までの観
点1つに着目し、同
じような内容ごと
に項目を作り分類
する。

同じものを
コピー

同じものを
コピー

3 手だてを用いた理由
全19項目に分類

自信を持たせた
い

誤った理解

興味関心・発想
を広げる

⋮

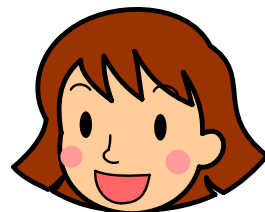
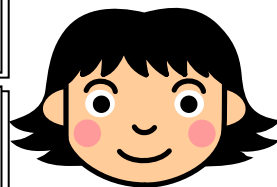
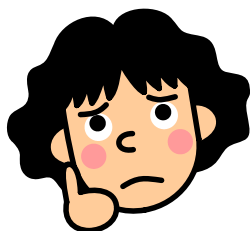
**4 授業・単元計画
のフィードバック**
全8項目に分類

個別指導

形成的評価

教師の支援・共
感

⋮



ウ [分類表]の作成

分類後、学年ごとの特色や傾向を捉えようと、1ラベルの中に含まれている個票が各学年何枚ずつあるかを集計した結果を次の表に示した。

授業日誌から見る児童の様子と教師の対応(学年別)

ラベル	学年	小3	小4	小5	小6
1 気になった状況					
1-A	学習に取り組む態度	7	0	32	3
1-B	学習に正対する態度・達成	2	0	1	4
1-C	学習の深まり	0	0	0	3
1-D	課題が未達成	19	0	14	2
1-E	学習のつまずき	4	0	6	0
1-F	学習の工夫	5	0	0	2
2 対応した手立て					
2-A	称賛	1	0	1	1
2-B	教師からの注意	1	1	5	1
2-C	助言	2	1	3	0
2-D	次の行動について個別に指示	9	0	6	0
2-E	解決方法の例を提案	1	0	4	0
2-F	物品の援助(貸す)	1	0	1	1
2-G	周囲の児童を動かして対応	0	0	2	0
2-H	授業時間以外で個別指導	3	0	0	0
2-I	全体の問題として全体に返す。	8	1	1	8
2-J	全体の中で本人へ意識付け	0	0	4	0
2-K	児童に状況の原因(理由)を聞く。	0	0	11	0
2-L	個別対応(児童と一緒に活動)	8	0	17	1
3 手立てを用いた理由					
3-A	自信を持たせたい。	3	0	2	2
3-B	誤った理解	1	0	1	0
3-C	興味、関心、発想を広げる。	5	0	3	5
3-D	普段も同様のことが多い。	0	2	0	0
3-E	理解を深める。	5	1	12	2
3-F	何もしない。気分で動く。	2	0	3	0
3-G	集中させる。	0	1	4	0
3-H	個別の指導が必要。	13	1	0	1
3-I	体調不良	1	0	2	0
3-J	丁寧さの不足	0	0	4	0
3-K	忘れ物	0	0	3	0
3-L	約束(ルール、学習規律)	2	0	8	1
3-M	目立つ。	0	0	1	1
3-N	自分のイメージで行動するため。	0	0	2	0
3-O	真剣に考えさせたい。	0	0	1	0
3-P	友達とのかかわり	2	0	3	0
3-Q	具体物、本物が有効	2	0	0	0
3-R	本人がやる気	0	0	1	0
3-S	授業の妨げになる。	0	0	0	2
4 授業・単元計画へのフィードバック					
4-A	個別指導	0	2	11	3
4-B	形成的評価	0	0	5	1
4-C	教師の支援・共感	0	0	2	4
4-D	学習カードの活用	0	0	4	0
4-E	個人目標の設定	0	0	2	0
4-F	教師の話し方	8	0	4	3
4-G	継続的な指導	0	0	6	1
4-H	指導技術の改善	9	0	7	5

② 分類後の考察

各観点別の結果を次のように考察した。

1 気になった状況

- ・どの学年も、学習に取り組む姿勢と、課題の達成状況（未達成）が問題となっている。

2 対応した手だて

- ・3年生では一斉に指示をするよりも個別に対応する方が、発達段階から見ても有効である。
- ・個人の問題を全体の問題として取り上げることは、3年生では学習規律や集団思考を身につける上で有効。6年生になると、そこから再び個に返していくことができる。
- ・授業にふさわしくない言動については、教師が指摘することが必要である。

3 手だてを用いた理由

- ・3年生では自信を持たせたり発想を広げたり理解を深めたりする必要がある。個別指導も確実な理解につながっていくと考えられる。
- ・5,6年生になると、発想を広げたり理解を深めたりすることが主となるが、学習規律の見直しが必要な部分も出てきている。
- ・5年生で様々な要因が挙がってきているので、より細かく児童を見て、有効な手立てを講じていくことが重要であろう。

4 授業・単元計画へのフィードバック

- ・どの学年においても、教師の話し方をはじめとする指導技術の改善を図ることが多い。
- ・5,6年生では、個別指導や共感など、児童の取り組みに対するかかわり方を工夫していくことが多い。
- ・単元計画の見直しまでには至っていない。

学年の特色や傾向を捉えようとしたが、データに大きな偏りがみられた。また、分類の仕方にも大きな隔たりが見られた。このことは、教師一人一人の授業に対する見方の大きな違いによるのではないかと考える。同時に、教師が授業を対象化する力の差の表れであるとも考えられる。

(2) 中学校数学科教師による実践

① 研究の方法と手順

ア 授業日誌（市内中学校3校の数学科教師3名で作成した2週間のサンプル）

〔用紙1〕を用意し、記入例のように各授業において、気になった内容を記入する。その際、実際に対応した手立ての他に、考えられる手立てをできるだけ多く記入する。特に気になった状況がない場合は記入しない。

◇〔用紙1〕

日時	クラス	対象生徒	気になった状況	対応した手立て	考えられる手立て1	考えられる手立て2	考えられる手立て3	対応した手立ての理由

◇〔記入例1〕

日時	クラス	対象生徒	気になった状況	対応した手立て	考えられる手立て1	考えられる手立て2	考えられる手立て3	対応した手立ての理由
11/7	〇-〇	A	居眠り	声をかけて起こす	担任との連携	生徒との約束をし、集中する時間を少しずつ延ばしていく	放課後個別指導を行い既習内容の理解をはかる	授業に参加させ内容を理解させる。

※考えられる手立てが見つからないときには無理して見つける必要はない。

イ 個票の作成

〔記入例1〕をもとに、日時、クラス、対象生徒、気になった状況、対応した手立て、対応した手立ての理由を記入した〔記入例2〕の個票を作成した。個票は考えられる手立て1～3ごとに、一枚ずつ作成する。〔記入例2〕の太字のところだけが変わってくるが、その他の項目は同じものが記入されている。考えられる手立てがひとつのときには、「対応した手立て」、「考えられる手立て1」の合計2枚の個票が作られる。

以下、同様の作業を行い、個票を作成する。

◇〔記入例2〕

（〔記入例1〕の場合は下の合計4枚）

日時 11/7 クラス 〇-〇 対象生徒 A 気になった状況 居眠り 対応した手立て 声をかけて起こす 対応した手立ての理由 授業に参加させ内容を理解させる 授業中の注意	日時 11/7 クラス 〇-〇 対象生徒 A 気になった状況 居眠り 考えられる手立て1 担任との連携 対応した手立ての理由 授業に参加させ内容を理解させる 担任・保護者との連携	日時 11/7 クラス 〇-〇 対象生徒 A 気になった状況 居眠り 考えられる手立て2 生徒との約束をし、集中する時間を少しずつ延ばしていく 対応した手立ての理由 授業に参加させ内容を理解させる 学習習慣の訓練	日時 11/7 クラス 〇-〇 対象生徒 A 気になった状況 居眠り 考えられる手立て3 放課後個別指導を行い既習内容の理解をはかる 対応した手立ての理由 授業に参加させ内容を理解させる 個別指導
---	---	--	--

ウ 分類表 1 (対応した手立て (横軸)、考えられる手立て (縦軸) での個票の分類)

イで作成した個票を「手立て」として、a~i に分類した。

ただし、[記入例 1]の横軸 a~i の項目の種類、数は作成者によって変わってくる。

◇[記入例 1]をもとに[記入例 2]の個票を分類して作成した[分類表 1]

手立て 手立ての有無	a 授業中の注意	b 個別指導	c 反省を促す	d 授業の約束	e 授業の工夫	f 自信を持たせる	g 担任・保護者 との連携	h 放課後の指導 (注意)	i 学習習慣の訓練
実際に教師が対応した手立て	1	0	0	0	0	0	0	0	0
ふり返りその他に考えられる手立て	0	1	0	0	0	0	1	0	1

◇2週間の授業日誌をもとに作成した[分類表 1]

手立て 手立ての有無	a 授業中の注意	b 個別指導	c 反省を促す	d 授業の約束	e 授業の工夫	f 自信を持たせる	g 担任・保護者 との連携	h 放課後の指導 (注意)	i 学習習慣の訓練	合計
実際に教師が対応した手立て	21	6	5	2	1	0	0	0	0	35
ふり返りその他に考えられる手立て	4	5	6	8	4	6	5	4	4	46
合計	25	11	11	10	5	6	5	4	4	81

◇横軸の項目の説明

a 授業中の注意

授業に集中していないので、その場で注意して授業に集中させる。

b 個別指導

やる気はあるのだが、わからないので作業が進まない。そこで、その場で個別指導する。

c 反省を促す

休み時間と授業で気持ちの切り替えができていない。気持ちを落ち着かせてから授業に集中させる。気持ちが安定していない状況が多く見られた。

d 授業の約束

発言の仕方、話の聞き方、ノートのとおり方など、授業の約束事を繰り返し指導する。

e 授業の工夫

意欲を持って取り組めるような課題を提示する。

f 自信を持たせる

授業内容を理解させるために、理解できているところまでさかのぼり指導していき、やればできるという自信を持たせる。

g 担任・保護者との連携

気持ちが落ち着かない生徒には授業担当者だけで対応するのではなく、担任、保護者などと連携していく。

h 放課後の指導(注意)

放課後に授業態度について説諭する。

i 学習習慣の訓練

集中力を養う。

エ 分類票 2 (個票の「手立て」―「気になった状況」での分類)

[分類表 1]の「手立て」を横軸、「気になった状況」を縦軸にとり、(2)で作成した個票を「気になった状況」に着目して同じような状況ごとに、項目を作り分類した。

(写真は個票を分類したときの様子)



◇分類表 2 (2 週間のサンプル)

手立て \ 気になった状況	a 授業中の注意	b 個別指導	c 反省を促す	d 授業の約束	e 授業の工夫	f 自信を持たせる	g 担任・保護者との連携	h 放課後の指導 (注意)	i 学習習慣の訓練	合計
A 私語	10	2	4	0	1	0	2	3	0	22
B 生徒の授業理解に関する内容	0	8	3	1	2	5	2	0	1	22
C 居眠り	5	0	1	0	2	1	0	1	0	10
D 精神状態(イライラ)	3	1	3	0	0	0	1	0	1	9
E 指示が理解できない	2	0	0	2	0	0	0	0	0	4
F いたずら、手悪さ	0	0	0	2	0	0	0	0	2	4
G 忘れ物	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3
H 授業規律	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
合計	20	11	11	10	5	6	5	4	4	76

② 考えられる手だての具体案

d. 授業の約束

挙手してから答えさせるようにする。作業をする時、聞く時の指示を明確にする。話を聞く時には手をひざの上に置く。

e. 授業の工夫

発展学習課題の用意。ゲーム的なプリントの用意。既習内容の確認の充実

f. 自信を持たせる

類題をいくつもおこなう。個別の課題提示。補習。

g. 担任・保護者との連携

保護者、相談室、教育センターなど外部機関との連携。

i. 学習習慣の訓練

生徒と約束をし、集中させる時間を徐々に長くしていく。

③ 結果

[分類表 1]では、教師が気になる状況の際に、様々な方法で全体、あるいは個別に注意することが圧倒的に多く、次いで、授業の約束事を守るように反省を促すことも多い。そして、[分類表 2]より、注意する内容としては私語や居眠りが多く、授業の内容が理解できなくて、生徒が困っているときには机間支援で個別指導を行い、自信を持たせて意欲を高める授業を行っていることがわかる。さらに、授業の約束事を入学時に徹底したり、学期当初に確認したりすること、やればできるという自信をもたせるために、授業時間以外での個別指導、担任や保護者との連携など、様々な解決策が見て取れる。

④ 考察

授業日誌法を行い、自らの授業をふり返り、指導法について「考えられる手立て」を増やしていくことで、同様な状況での教師の対応の引き出しが増え、指導する際、心に余裕が出る。居眠り、私語に関して同じ注意を繰り返し行ってもあまり改善されない現実をふり返り、別の手立てで指導したところ以前とは異なった指導ができたという報告があり、一通りの方法ではなく色々な方法で指導することが有効な場合があるという意識が生まれた。

[分類表 1]を見ると、a, b に関しては教師の日常的で一般的な指導方法であることがわかる。今回の研究では、c ~ i の項目に着目して今後の研究を進めていこうと考えている。つまり「勉強しないのは、私語が多いのは生徒の責任」「学習習慣や授業規律の確立は小学校で」という中学校教師が他に責任転嫁をするのではなく、授業を担当する教師が自らの授業をふり返ることにより、生徒をひきつける授業の工夫の必要性や指導する手立てを多様化するなど教師の授業力の向上に繋がる。

「考えられる手立て」には「② 具体的な考えられる手立ての具体案」で具体的な内容を明記している、が特に目新しいものはない。しかし、明文化して、それを実践することで教師の意識は変わる。実際に、学習習慣が定着していない生徒に今回のリフレクションの結果を生かした小テストや補習を行い、基礎学力定着に努めたところ、次時の授業で意欲の向上が見られた。

しかし、[分類表 2]の A 私語や C 居眠りが多といった学習意欲の低下、また、B 授業理解に関する内容として授業の理解不足が明白になっており、H 授業規律に関する内容として、授業の受け方、挙手の仕方、ノートのとり方を指導する重要性が確認できた事も事実である。多種多様な課題の解決のためには校内学習指導体制の見直しや改善を図る必要がある。また、食生活や睡眠時間など基本的な生活習慣を確立できるよう家庭と協力し、さらに授業規律に関しては小学校及び保護者と連携するなど、中・長期的に取り組む必要がある。その第一歩として、今後は授業日誌法での授業リフレクションに校内研修で取り組むことが、授業改善を含めた今日的な課題の解決に効果的であると考えられる。

IV. 研究のまとめ

1 研究の成果

(1) ビデオ視聴をもとにした授業リフレクション

- 授業リフレクションを体験した教師にとって、常に子どもの言動、教師の発問に「なぜ・・・」という意識を持ち、一つ一つの教授行動をふり返る契機となった。
- 授業後に子どもの印象ではなく、個々の子どもの事実に基づいて議論しあえたことから、教師の自己理解が深まり、子どもの実態に応じた本時の授業の再構築を考える上でも大変有効であった。
- 参観者一人一人が、気になった子どもの事実と解釈を記入したカード（付箋）を持ち寄り、意見交換をすることで子ども理解が深まった。このことをもとにさまざまな授業改善策が提案された。



KJ 法でカードを分類しながら
の話し合いの様子



(2) 授業日誌法による授業リフレクション

- 授業日誌法では、まず日々の実践を記述することで、自身の指導をふり返ることができた。また、個票の分類作業では、より自分を客観視して理解することができた。
- 授業日誌法では、記述に現れた傾向から、教師の指導スタイルや子どもと向き合う姿勢についても省みることができ、それらをよりよく修正・改善する視点が明確になった。

2 今後の課題

(1) ビデオ視聴をもとにした授業リフレクション

- 多くの時間を費やしてしまうので効率良く進めるための工夫が必要である。
- 授業改善や指導力向上のための対話リフレクションでは、指摘事項が多くなるので、教師間の信頼関係が重要である。

(2) 授業日誌法をもとにした授業リフレクション

- 中学校では生徒指導的内容が多くなってしまふ。
- 小学校では複数教科を指導するため、教師自身の傾向は見えてくるが授業改善に結びつけるのは難しい。そこで、教科ごとの授業日誌などの方法を考えていく必要がある。
- 個人として考えられる手立てには限りが出てきてしまうため、他者の視点も必要となってくる。

<参考文献>

- 平成 17 年度所沢市教育センター研究員研究紀要「総合的な学習の時間のカリキュラムの開発」
- 教育展望 平成 18 年 6 月号